

東彼杵町立彼杵小学校

令和3年度 東彼杵町立彼杵小学校 「学校評価」結果考察(報告)

下記の通り、令和3年度に実施した「学校評価」を報告します。  
評価は高い方から順にA、B、C、Dの4段階としています。

記

長期	中期目標	短期目標	具体目標	担当	達成状況	評価
思いやりのある子	相手を思いやり、彼杵を愛する子	特別支援教育の充実(児童の姿)	・お互いをよく知り、認め合う。	心を育てる部	・児童の評価が上がってきている。 ・人権の取り組みを行っていたが、取組に十分でない場面があった。今後も見過ごすことなく、その児童にあった丁寧な指導をしていく。	B
		基本的な生活習慣(児童の姿)	・気持ちの良いあいさつや返事、受け答えをする。		・12月の学級の取組は効果が上がっていた。 ・児童によっては、まだ挨拶がきちんとできていない。 ・ワンストップ挨拶を今後実践し、立ち止まって挨拶することを徹底させる。	C
		体験活動の充実(交流)(児童の姿)	・様々な体験を通して、地域の人や異学年の人と、思いやりの心を持って、折り合いをつけたり、協力したりして交流する。		・GTを招き(高学年総合、低学年生活)様々な方の話を聞くことができた。 ・運動会や縦割り活動、委員会、クラブなどを通して低学年をまとめようとする意欲が見られた。	B
		特別活動の充実(児童の姿)	・集会等の企画・運営に自ら進んで参加し、自分なりに思いや願を持って活動をする。		・委員会やクラブ活動の時に、「下の学年をまとめ、積極的に意見することができましたか」という質問項目に対して、75パーセントの児童が「できた」「まあまあできた」と答えた。	B
進んで学ぶ子	確かな学力を身に付けた子	基礎基本の定着(児童の姿)	・標準学力調査の基礎問題において、全国平均正答率以上を目指す。	学びを高める部	・12月実施の標準学力テスト基礎問題の結果、算数科の2つの学年において全国平均を超える結果であった。 ・4月実施分との結果の比較では、算数科では3つの学年で、国語科では2つの学年で伸びが見られた。算数科に比べ国語科には伸びに課題が見られるものの、2月実施の漢字検定に向け学習指導に重点的に取り組んでいる。	B
		思考力・判断力・表現力の育成(児童の姿)	・学期末まとめテストで8割以上を目指す。		・全学年において8割以上が達成できている。特に少人数指導やTTによる学習体制をとっている算数科の学習においては、日々の取組が一定の学習効果を上げている。	A
		読解力の向上	・年間100冊以上の本を読む。		・学校では多くの子どもが本を読んでおり、前年度に比べ9月30日までで3300冊も増えている。また12月20日現在、2学期の目安である70冊以上借りた子どもは220名いる。このことは読解力向上にも大きく関わっている。	B
		(児童の姿)	・新聞に親しみ、読む子どもを増やす		・NIE教育の一環で、各階廊下等に各社新聞並びに子ども新聞を掲示し、常に子どもたちが新聞に目を通す機会を設けることができた。児童は、休み時間やちょっとした時間を見つけて、掲示された新聞をよく読んでいた。このことも読解力向上へと結びついている。	B

長期	中期目標	短期目標	具体目標	担当	達成状況	評価
進んで学ぶ子	確かな学力を身に付けた子	ICTの活用(児童の姿)	・学年に応じた技能の向上 3年…ローマ字入力ができる 4年…IN検索ができる 5年…タブレットを使いこなす 6年…プレゼンができる	学びを高める部	・一人1台のタブレットの配布、指導により、ICTの技能は学年に応じた目標を達成できた。	A
		家庭学習の習慣化(児童の姿)	・家庭学習に毎日取り組む。 (低学年30分～1時間、中学年1時間～1時間半 高学年1時間半～2時間)		・漢字検定や標準学力テストの練習のための課題を、家庭学習に出すことや生活習慣チェックカードの取組による家庭への啓発により、学習内容に関心をもつ子が増え、家庭学習の習慣化ができてきた。	B
しんぼう強くがんばる子	体力づくりに努め、最後までやりぬく子	体力の向上(児童の姿)	・体育の授業に積極的に取り組ませ、体力の向上を目指す。	健康をつくる部	・新型コロナウイルス感染対策に努めながら、準備運動で縄跳びや走る運動を積極的に取り入れ、体力向上に取り組んだ。次年度の体力調査により確認したい。	B
		清潔で安全な学校づくり(児童の姿)	・無言掃除に取り組む。		・鉄棒や縄跳びなど体育で取り組んだ活動を昼休みにしていたり、子どもたち自身楽しんで遊んでいたりといる。	C
		健康教育の推進【児童の意識改革】(児童の姿)	・衛生面に気を付けて生活をする。 ・好き嫌いをなく食べ、給食残量ゼロを目指す。		・無言掃除に関しては、まだ十分な定着できていないので継続して指導していく。 ・靴箱掃除は学校全体で統一して指導が必要。	B
					・ほとんど残食ゼロを守っていた。	B
信頼される学校	校を指導力する高め、家庭・地域とともにある学校	教職員の資質の向上(教師・学校の姿)	・楽しく分かる授業に努める。	教頭	・全職員による、国語科・算数科を中心とした授業研究がなされた。特に計画的に研究授業を実践できたことは大きい。しかし、研究授業実施時期が集中しないよう配慮が必要であった。 ・GTの効果的な活用は、児童に感動を伴う直接的・間接的な学習を展開することができた。	B
		家庭・地域との連携(教師・学校の姿)	・教育活動において、PTAや学校運営協議会と協働する。		・GTに地域の人材を招き、ふるさと教育を推進することができた。 ・新型コロナウイルスの影響による制限はあったが、学校運営協議会との協働を図り、芝刈りや児童の安全確保に尽力いただいた。	B
		組織力の強化(教師・学校の姿)	・報告・連絡・相談に努め、各種委員会等チームで動く。		・ベテラン教師の経験と若手教師の機動力を生かした、組織的な業務の推進が図れた。	B
		施設・設備等学校環境の整備	・教職員と連携を図りながら、児童が安全に学校生活を送ることができるような環境整備に努める。		・100%達成とは言えないが、学校予算で対応できるもの、できないものについては、教育委員会に相談させていただくなどして、速やかな対応に取り組むことができた。	B